

中泊メバルシリーズ第10弾がデビュー

メバルいずし

中泊メバル料理推進協議会(会長・中畑哲也)が、中泊メバルシリーズ第10弾完成披露発表会を11月2日(火)に役場で開きました。津軽の郷土料理「飯寿し」と町の特産品である「メバル」が組み合わせられた中泊メバルシリーズ第10弾の名は「メバルいずし」です。

この飯寿しは、北海道にある50年以上飯寿しを製造している「中井英策商店」が打診を受け、約半年かけて開発されました。表面をあぶり香ばしさを引き出したメバルの切り身や米、こうじ、野菜などをつけて

約3週間発酵させています。

中井英策商店の及川昌弘代表取締役は「お酒のおつまみやオードブルの一品などに合う画期的な新商品ができた。ぜひ、たくさんの人に食べていただきたい」と話していました。

町長は「歯ごたえがしっかりとあつて美味しく、いろんな飲み物に合いそうな味になっている。シリーズ第10弾まででしたが、まだまだいきたい」と目標を語っていました。ぜひ、お土産や自分へのご褒美などにご利用ください。



◆商品概要
一箱(250グラム)
2,700円(税込)

◆提供店舗
・町特産物直売所ピュア
・中井英策商店ホームページ
(<http://www.nakai-izushi.com/index.php>)

老若男女問わずに

楽しんでほしい!

中高SBPがカルタ・ラジオ完成の報告
中里高校SBP同好会が11月12日(金)に町長のもとを訪れ、「中高ラジオ」と「なかどまりカルタ」が完成したことを報告しました。

ラジオは、町のことを知ってもらおう新たなツールとして、生徒が地域の人・町内の飲食店との交流や学校行事の様子を音声収録しCD化したもの、カルタは、町の魅力をカルタを通して知ってもらうことで地域密着・地域愛を育てていくために制作されました。

カルタを中心に制作した菊地明香里さんは「カルタでは幼い子でもわかるような言葉選びをした。幼稚園からお年寄りまでたくさんの人に楽しんでもらえたら」と期待を込めていました。



町はどんな農業をしているの？

小泊小5年が役場で現地学習

小泊小学校5年生が10月19日(火)に役場で現地学習を行いました。

児童たちは「町の農業の取組」をテーマとして、町で実際に行われている「育苗ハウス」を活用したシャインマスカットの生産方法や農家の取組、苦勞などを学びました。

町でシャインマスカットが栽培されていることを知らなかった子も多く、

最後には時間が足りなくなるくらいたくさんの質問があり、児童たちは「町の農業の取組や苦勞をいろいろ知ることができた」と笑顔を見せていました。



たくさん大きいのが採れたよ!

中里こども園が芋ほり体験

中里こども園の園児たちが10月19日(火)に6月に植えた紅はるか、ふくむらさき、安納3号の3種類のサツマイモ収穫体験を行いました。

園児たちは、先生たちに手伝ってもらいながら一生懸命サツマイモを収穫し、大きいのが採れたと見せあう場面も見られました。園児たちは、サツマイモをスイートポテトや焼き芋にして食べたいと今回の収穫をとっても喜んでいました。



感謝を込めてカーブミラー拭き

町シルバー人材センターが奉仕活動

県シルバー人材センター連合会では、地域社会の活性化と社会参加による生きがいの充実を図ることを目的として、事業の普及啓発月間である10月の特定の日を「シルバーの日」と定め、町シルバー人材センターも奉仕活動を行っています。

今年は10月20日(水)に、カーブミラーの拭き掃除を行いました。

活動後、荒関正男事務局長は「この活動を行うことで事故防止につながってほしい」と述べていました。

